

# ■病害虫と適用薬剤の使用基準

(令和3年12月現在)

(殺菌剤) 農薬名	使用時期 日前まで	使用回数 回以内	作用効果	毒性	適用病害虫名								希釈倍数	有機栽培
					炭疽病	輪斑病	新梢枯死症	網もち病	もち病	褐色円星病	黒葉腐病	赤焼病		
アミスター20フロアブル	14	3	予防・治療	普	○	○	○						2,000倍	
インダーフロアブル	7	2	予防・治療	普	○			○	○	○			*5,000~8,000倍	
オンリーワンフロアブル	7	2	予防・治療	普	○		○						*2,000~3,000倍	
カスミンボルドー (カッパーシン水和剤)	14	2	予防・治療	普	○	○				○			500~1,000倍	
クプロシールド	3	-	予防	普	○			○	○		○		*500~1,000倍	○
コサイド3000	14	-	予防	普	○			○	○	○			1,000倍	○
スコア顆粒水和剤	7	2	予防・治療	普	○			○	○				2,000倍	
Zボルドー	7	-	予防	普	○			○	○		○		*400~500倍	○
ダコニール1000	10	1	予防	普	○	○		○	○	○			*700~1,000倍	
ドイッポルドーA	14	-	予防	普	○			○	○				*500~1,000倍	○
ナリアWDG	14	2	予防・治療	普	○	○	○	○	○	○			2,000倍	
ファンタジスタ顆粒水和剤	7	1	予防・治療	普	○	○							3,000倍	
フジドーLフロアブル	14	-	予防	普	○			○	○				500倍	
フロンサイドSC	14	1	予防	普	○	○	○	○	○	○			2,000倍	
プリントフロアブル25	14	2	予防・治療	普	○	○							*2,000~3,000倍	
ベフドー水和剤	7	2	予防	普	○								*500~700倍	
MッシュボルドーDF	7	1	予防	普	○								500~1,000倍	○

\*印は、商品説明には必ず記載されているが異なる希釈回数が必要と記載されていない。

(殺虫剤) 農薬名	使用時期 日前まで	使用回数 回以内	作用効果	毒性	適用病害虫名														希釈倍数	有機栽培
					カンザワハダニ	チャノナカゼミ	チャノホコリダニ	チャノカボモンハマキ	チャノハモク	チャノホソガ	ヨモギエダシヤク	クワシロカイガラシ	チャノヒメコノカイ	シラカバノカイ	シラカバノカイ	シラカバノカイ	シラカバノカイ	シラカバノカイ		
アクタラ顆粒水溶剤	7	1	速効	普														*2,000~3,000倍		
アグリメック	7	1	速効	劇	○	○	○											1,000倍		
アフーム乳剤	7	1	速効	普		○	○	○	○	○								*1,000~2,000倍		
アフームエクセラ顆粒水和剤	7	1	速効	普		○	○	○	○	○								1,000倍		
アブロードエースフロアブル	14	2	速効	普	○	○												1,000倍		
ウララD F	7	1	速効	普														*1,000~2,000倍		
エクスレシエ	7	1	速効	普		○	○	○	○	○								2,000倍		
エスマルクDF	7	-	速効	普														1,000倍	○	
カスケード乳剤	7	2	速効	普	○	○	○	○	○	○								4,000倍		
ガンバ水和剤	14	1	速効	劇	○	○												*1,000~1,500倍		
クラップフロアブル	7	1	速効	普														2,000倍		
グレーシア乳剤	14	1	速効	普	○	○	○	○	○	○								*2,000~3,000倍		
コテツフロアブル	7	2	速効	劇	○	○	○											2,000倍		
コルト顆粒水和剤	7	2	速効	普														*2,000~3,000倍		
サムコルフロアブル10	3	1	速効	普		○	○	○										*2,000~4,000倍		
サンクリスタル乳剤	前日	-	速効	普	○	○												300~600倍	○	
サンマイルフロアブル	14	2	速効	劇	○	○	○											*1,000~2,000倍		
除虫菊乳剤3	10	3	速効	普					○	○								*500~1,000倍	○	
スタークル顆粒水溶剤	7	2	速効	普					○	○	○	○						2,000倍		
スブラサイド乳剤40	14	1	速効	劇					○	○	○	○						*1,000~1,500倍		
ダニゲッターフロアブル	7	1	速効	普	○	○	○											2,000倍		
ダニコングフロアブル	7	1	速効	普														2,000~4,000倍		
ダニサラフロアブル	7	2	速効	普	○	○												1,000~2,000倍		
ダントツ水溶剤	7	1	速効	普					○	○	○	○	○	○	○			*2,000~4,000倍		
テッパン液剤	3	1	速効	普					○	○	○	○	○	○	○			*1,000~2,000倍		
茶ちゃっとフロアブル	14	1	速効	普	○	○												2,000倍		
ディアナSC	前日	1	速効	普					○	○	○	○						2,500~5,000倍		
ノーモルト乳剤	7	1	速効	普														2,000~4,000倍		
ハーベストオイル	注1	-	速効	普														*50~150倍	○	
ハチハチ乳剤	14	1	速効	劇	○	○												*1,000~1,500倍		
ハマキコン-N	注2	-	長期	普					○	○								150~250本/10a	○	
ハマキ天敵	前日	-	長期	普					○	○								1,000~3,000倍	○	
バリアード顆粒水和剤	7	1	速効	劇					○	○								*2,000~4,000倍		
バロックフロアブル	7	1	速効	普	○													1,000~3,000倍		
ファルコンフロアブル	7	2	速効	普					○	○	○							*4,000~8,000倍		
ブルートMC	注3	1	長期	普														1,000倍		
マイトコーネフロアブル	注4	1	速効	普	○	○												1,000倍		
ミルベノック乳剤	7	1	速効	普	○	○												1,000倍	○	
モスピラン顆粒水溶剤	7	1	速効	劇					○	○								4,000倍		
ヨーバルフロアブル	7	1	速効	普					○	○								2,500~5,000倍		
レビクリーンDF	最終摘採後	-	速効	普					○	○								500~1,000倍	○	

注1. ハーベストオイルは、夏期(5~9月)、秋冬期(10~3月)  
 注2. ハマキコンNは成虫発生初期~終期(ローブ 30~50m/10a)  
 注3. ブルートMCは、1月~3月(但し、一番茶摘採30日前まで)  
 注4. マイトコーネは、摘採14日前まで(但し、遮光する栽培では遮光開始14日前まで)  
 注5. スブラサイド乳剤40は、令和4年をもって販売終了予定

# ■薬剤の特性・特徴

殺菌剤		
薬剤の種類	薬剤名	主な特徴・留意点
無機銅剤系	○コサイド3000 ○コサイドボルドー ○Zボルドー水和剤 ○ドイッポルドーA ○ドイッポルドーDF ○フジドーLフロアブル ○クプロシールド ○ムッシュボルドーDF	・銅イオンの殺菌効果を活かした剤で、作用は予防効果である。 ・適用範囲は広いが、効果はやや緩慢である。 ・治療効果はないが、耐性菌の発現の可能性は少ない。 ・黒褐色微小斑の葉害を生じることがあるが、実害はない。 ・天然物で安全性は高い。 ・有機栽培や米園輸出茶栽培に使用できる。
有機塩素系	クロロタニル(TPN) ダコニール1000	・殺菌作用は予防効果で、残効性が極めて優れる特徴がある。 ・耐雨性があり、紫外線にも安定し残効がある。 ・適用範囲は極めて広く、多くの作物の糸状菌病害に適用がある。 ・性質の発生はない。茶病害では炭疽病など殆どの病害に有効な基幹防除剤である。 ・炭疽病は感染の生じる雨前、輪斑病は摘採直後の使用で有効である。 ・耐性菌の発生の可能性少ない。
銅剤+抗生物質 (塩基性塩化銅+カスガマイシン)	○カスミンボルドー ○カッパーシン水和剤	・銅剤と浸透移行性がある抗生物質カスガマイシンの混合剤で予防・治療効果を示す。 ・残効性も優れる。 ・輪斑病にも効果が高く、摘採3日後までの散布で有効である。 ・使用時期(摘採14日前)、使用回数(2回)に留意する。 ・耐性菌が発現しやすい。 ・米園輸出茶栽培に使用できる。
EBI系	インダーフロアブル オンリーワンフロアブル スコア顆粒水和剤 ラリー水和剤	・エルゴステロール阻害による直接殺菌効果がある。浸透移行性があり、感染後発病を阻止する治療効果は極めて高いが、予防効果は低い。 ・炭疽病、もち病、網もち病、褐色円星病には卓効がある。 ・薬剤間で、効力に差がある。選択性があり、輪斑病には効果がない。 ・感染が生じる雨持続後散布で効果が高い。 ・適用すると耐性菌発生が懸念される。 ・オンリーワンはやや残留性がやや高いのが懸念されている。 ・インダー、スコアは米園輸出茶栽培に使用できる。
ベンゾイミダゾール系	トップジンM	・浸透移行性で、直接殺菌作用を示す。速効性で予防効果は低い。 ・炭疽病・輪斑病に特效を示していたが、耐性菌発生で効果は低下し、現在はほとんど使用されない。
ストロビルリン系 (ベンジルカーバメート系)	○アミスター20フロアブル ナリアWDG ファンタジスタ顆粒水和剤 プリントフロアブル25	・作用は予防効果と幾分浸透移行性もあり、治療効果も示す。 ・予防効果の速効性は低い。適用範囲は比較的広い。 ・輪斑病・新梢枯死症に卓効を示し、輪斑病には摘採3日後までの散布で有効(プリントを除く)である。炭疽病、網もち病に対する効果はやや低い。地域により耐性菌がみられるため運用・多用は避ける。ファンタジスタは系統的には異なるが、交差耐性を示す。 ・アミスターは米園輸出茶栽培に使用できる。
グアニジン系剤	ベフドー水和剤	・殺菌作用は銅剤とグアニジンの協力で安定した予防効果を示す。 ・残効性は高い。治療効果はない。 ・茶病害の殆どに(赤焼病にも)有効で、基幹防除剤に適する。 ・耐性菌発生の可能性は少ない。
フルアジナム剤	フロンサイドSC	・殺菌作用は予防効果で、残効性もある。治療効果はない。 ・適用範囲は比較的広く炭疽病・輪斑病・新梢枯死症・もち病に有効である。 ・炭疽病には感染の生じる雨前、輪斑病は摘採直後の使用で有効である。 ・耐性菌発生の可能性は少ない。 ・米園輸出茶栽培に使用できる。

○の薬剤はUSサブライドで使用できる。

殺ダニ剤		
薬剤の種類	薬剤名	主な特徴・留意点
オキサジン系 エトキサゾール	○バロックフロアブル	・殺ダニ作用は心臓阻害、幼虫・幼若虫に対する脱皮阻害である。殺菌作用もある。 ・殺成虫作用はないが、処理された成虫の産下卵心臓阻害作用がある。 ・浸透移行性は高く、主に接触的に作用する。 ・速効的で、残効性が優れ、長期間発生を抑える。 ・越冬後の発生初期(産卵・幼虫心臓・増殖期)使用に適する。 ・カブリダニなど天敵、有用昆虫に対する影響は少ない。 ・米園、EU輸出茶栽培に使用できる。
同混合剤	茶ちゃっとフロアブル	・バロックとマイトクリーンの混合剤である。 ・サビダニ類に活性の高いマイトクリーンの混合によりハダニ、サビダニの同時防除ができる。
環状ケトエノール系 スピロメシフェン	○ダニゲッターフロアブル	・脂質の生合成を阻害し、殺ダニする。ハダニの卵・幼虫に高い活性を示す。 ・殺成虫効果は弱い。産成虫の産卵数減少や産下卵の未心化、心化後幼虫死亡などの作用効果がある。 ・速効的で、長期間密度抑制効果があり、越冬後の産卵、増殖開始期の防除に適する。 ・浸透移行性はない。サビダニ類、チャットコナジミに対する防除効果もみられる。 ・天敵、有用昆虫に対する影響は少ない。 ・米園輸出茶栽培に使用できる。
シフルメトフェン	ダニサラフロアブル	・共に呼吸阻害による殺ダニ作用である。 ・ハダニ類の全発育ステージに活性を示し、特にダニサラハは幼虫に対する効果は高い。 ・浸透移行性は高く、効果発現は速効的で、残効性も優れ、多発生状態での防除効果が高い。 ・天敵、有用昆虫などへの影響は少ない。 ・ダニサラハは春期や夏期の発生が多い状況での防除に適する。 ・ダニサラハは米園輸出茶栽培に使用できる。
シエノピラフェン	スターマイルフロアブル	・呼吸阻害により、殺ダニ活性を示す。 ・ハダニの成虫、幼若虫に高い活性を示し、発生増加期でも効果を示す。残効性も優れる。 ・浸透移行性はないので、葉裏に十分散布する。 ・天敵、有用昆虫に対する影響は少ない。
ピフルプロミド	ダニコングフロアブル	・浸透移行性は高く、接触毒、吸汁毒で、活性を示す。 ・ハダニ、サビダニ類に高い活性を示し、成虫、幼若虫に高い効果で、殺卵効果は劣る。 ・速効的殺虫ではないが、麻痺状態から3~4日で死亡させる。残効性もある。 ・既存の殺ダニ剤に感受性の低下したダニにも有効である。 ・有用昆虫、天敵への影響は少ない。
ピフェナゼート	マイトコーネフロアブル	・殺成虫、殺幼若虫効果が高く、産卵抑制効果もある。 ・極めて速効的で、残効性はやや劣る。 ・ハダニ多発時の速効を期待する状況での防除に適する。 ・広範囲のダニに有効であるが、天敵に影響が強く、散布後に異常増殖がみられることがある。
マクロライド系 ミルベメクテン	ミルベノック乳剤	・接触毒作用もあるが、吸汁毒作用が強い。 ・殺成虫、殺幼若虫効果が高く、産卵抑制効果もある。 ・極めて速効的で、残効性はやや劣る。 ・ハダニ多発時の速効を期待する状況での防除に適する。 ・広範囲のダニに有効であるが、天敵に影響が強く、散布後に異常増殖がみられることがある。

○の薬剤はUSサブライドで使用できる。

殺虫剤			
薬剤の種類	薬剤名	主な特徴・留意点	
IGR系剤 (脱皮阻害剤)	脱皮阻害剤 キチン合成阻害剤 脱皮促進剤	○アブロードエースフロアブル カスケード乳剤 ノーモルト乳剤 ファルコンフロアブル	・昆虫の皮膚を形成するキチン質の合成を阻害し、脱皮阻害作用により殺虫作用を示す。 ・効果発現は遅効的である。適用範囲狭く、主に鱗翅目害虫に効果を示すものが多い。 ・天敵類や昆虫以外の生物・生態系への影響は少なく、人畜への安全性は高い。 ・アブロードエースはクワシロカイガラムシ、チャノミドリヒメコバイなど半翅目害虫に有効である。 ・アブロードエースは米園輸出茶栽培に使用できる。 ・昆虫の脱皮を促進し、殺虫する。散布適期幅が広く、効果発現が早い。
幼若ホルモン剤	ブルートMC	・昆虫の発育成長(変態・脱皮)ホルモン代謝に作用し殺虫する。 ・残効性極めて優れ(概ね1年)、待受型で接触的に作用する。 ・散布適期の見極める必要がなく、越冬期(産卵期)防除が可能である。 ・蚕に対する毒性は極めて強く、桑園周辺(2.6km以内)は使用できない。	
ネオニコチノイド剤	○アクタラ顆粒水和剤 ○キラップフロアブル ○スタークル(アルパリン)顆粒水和剤 ○ダントツ水溶剤 ○バリアード顆粒水和剤 ○モスピラン顆粒水溶剤	・神経系に作用し、神経伝達遮断により殺虫する。 ・接染毒、食毒で殺虫作用を示す。速効的で、残効性も優れる。浸透移行性も高く、茎葉・根などから吸収されて効果を示す。 ・ウンカ・スリップス・アブラムシ・ホソガなどに効果を示す。 ・モスピラン、バリアードはホソガに対する効果が高い。 ・薬剤抵抗性が生じやすく、ウンカ、スリップスなどに対しアドマイヤーなどの剤で薬剤抵抗性発現がみられる。現在、スタークル(アルパリン)は感受性低下がなく、効果がある。 ・スタークル、アクタラ、モスピラン、ダントツは米園輸出茶栽培に使用できる。	
BT剤	○エスマルクDF ○サブリナフロアブル ○ゼンターリ顆粒水和剤 ○デルフィン顆粒水和剤 ○レビクリーンDF ○チェンナップ顆粒水和剤	・微生物BT菌の生菌および産生毒素を薬剤にしたものである。 ・鱗翅目害虫のみに有効で、幼虫に食毒的に作用し、中腸殺虫する。 ・若齢幼虫に対する活性が高いので、散布適期を失ないようにする。 ・効果発現はやや遅効的で、ホソガに対しては卵・葉着期散布の効果は低く、葉緑巻葉期散布で、虫糞量抑制による防除効果を示す。 ・作用性が選択的のため、天敵、他の生物など生態系に影響は少なく、安全性が高い。 ・有機農産物JAS規格において使用が認められ、輸出茶栽培圏にも使用できる。	
呼吸代謝系阻害剤	クロルフェナビル		